

『つなぐ鍋山安らぎの里づくり事業』だより No.4

令和7年3月

「つなぐ鍋山安らぎの里づくり実証事業（農村RMO）」につきましては、令和7年3月末時点で、125名（戸）の皆様に入会をいただきました。

本事業は、令和5年度から7年度の3か年の実証事業で、令和7年3月末で事業開始から2年が経過し、令和7年度が最終年度となります。

このたび、令和6年度の主な実証状況についてお知らせします。

なお、令和6年度の当初予算は650万円でしたが、10月に農林水産省より350万円の予算が追加され、1,000万円での事業となり、結果としては980万円の執行となりました。

地域計画・目標地図の作成



「将来、地域の農地を誰が利用し、農地をどうまとめていくか」、「農地を含め、地域農業をどのように維持・発展していくか」など、地域農業のあり方を協議し、地域計画および目標地図を作成する。

市、農業委員、農業者などを中心に、令和5年8月頃から着手し、令和7年3月末に初版が完成した。

5月15日～ **ガーデンハックルベリーの栽培** (※ガーデンハックルベリーとは、見た目ブルーベリーですが、ナス科の植物でジャムなどに加工します。βカロテン、レチノール、ビタミンB1、カルシウム、カリウム、アントシアニンなどがブルーベリーの数倍以上含まれています)

殿河内地区の畑を活用し、ガーデンハックルベリーの栽培に取り組みました。
 この実証は、特産づくりの一環とし、約0.4反の畑で出雲市内の農家さん(三刀屋町出身)から仕入れた苗110本を植栽し、栽培を始めました。



5月21日～ **カワラケツメイ (はま茶) の栽培**



鳥目槇原地区の休耕田を活用し、カワラケツメイの栽培に取り組みました。
 この実証は、特産品づくりの一環とし、出雲市市内のお茶製造会社から種2kgの提供を受け、約1反の休耕田で種まき、栽培を始めました。

5月22日～毎月1回 **事業定例会**

本事業(農林水産省の農村RMO事業)は、県、市および事業関係者が毎月集い、実証事業の進捗確認や課題の共有および検討会を開催しています。
 また、県のコンサルタントの方も参加されており、本事業終了後の鍋山の農業の姿について検討を進めています。



6月17日

野菜生産者の方々との意見交換会



今後における島根県の取り組みの参考にするため、鍋山地区内の野菜や果実の生産者との意見交換会を開催しました。鍋山地区内の生産者12名が参加され、2つのグループに分かれ、各々、野菜や果実の栽培の現状について、栽培の規模、産直などへの出荷の状況、圃場の状況などについて意見交換を行いました。以降、新たな出荷生産者の方も加入されるなか、少しずつですが販売高が上昇しています。

8月20日~23日

ガーデンハックルベリーの収穫

植栽後、随時草取りやネット張りなどを行いながら栽培してきたガーデンハックルベリーが収穫期を迎えたことから、地域の皆様のご協力をいただきながら、旧鍋山幼稚園にて実の収穫と洗浄、冷凍保存作業を行いました。実は73kgの収穫があり、逐次、ジャム加工や販売を行っています。



8月19日~

カワラケツメイの収穫



植栽後、随時草取りや水撒きなどを行いながら栽培してきたカワラケツメイが順調に成長し収穫期を迎えたことから、バインダーを使い刈り取りを行いました。刈り取り後は、付近のビニールハウス2棟をお借りし乾燥作業を行い、約180kgを岡山県の製茶業者に出荷販売しました。

8月20日

ブロッコリーの栽培

冬場の直売所における野菜不足を解消したいとの思いから、JA雲南地区本部と連携し、ブロッコリーの栽培実証に取り組みました。

8月20日には栽培方法等について、JA雲南地区本部の専門職員から説明を受けました。

早生、中生、晩生、の3種類に分けて、8月末に定植を行い、令和7年春までの間、リレー出荷が可能な品種です。鍋山地区内の9名の生産者さんが栽培、出荷販売に取り組みました。



4月から随時

竹チップ化と土壌改良剤としての活用



令和5年度に導入した「竹粉碎机」は、令和6年度より本事業の会員の方々へ順次貸出しを行っています。

利用者の方々は、チップ化した竹粉を田畑に撒いて、その効果を実証されています。

令和7年度からご利用にあたっては、原則10日間で15千円の利用料と、燃料費は実費負担となります。

また、機器の搬送や操作支援もご要望に応じて行っていますので、活用についてご検討をいただければと思います。

10月10日～

大根およびニンニクの植栽

農産物栽培による特産品の開発に向けた実証として、干し大根や黒ニンニク加工品を生産するため、殿河内地内の休耕田や畑を利用し、大根800本とニンニク2000個分の種まきを行いました。

大根は2月～3月にかけてそのまま出荷販売するとともに、乾燥機により干し大根作りも行い完売することができました。

作業は、労働者協同組合うんなんに依頼しました。



10月25日～26日

中国四国農政局主催「農村RMOフォーラム」での事例発表と現地視察受入れ



農村RMOの普及啓発及び本事業に取り組もうとする関係者の知見向上を図るため、中国四国農政局主催の「農村RMO推進フォーラム」が雲南市木次町のチェリヴァホールで開催されました。当日は躍動鍋山の取り組みについて事例発表や意見交換を行うとともに、翌日は事業事務所（鍋山幼稚園）に約40名の方が視察に來られ、竹チップなどの実証状況を説明しました。

12月17日

電気乾燥機の導入と操作説明会の開催

生野菜、果物や椎茸などを乾燥し長期保存することにより、新たな販売品の産出と販売高向上をはかる実証として「電気乾燥機」を導入し、その操作説明会を開催しました。当日は20名の方が参加され、業者からの説明を受けながら、有効活用に向け意見交換を行いました。



2月26日

真空包装機の導入と操作説明会の開催



野菜、果実、山菜、肉、魚などを真空包装化し長期保存することにより、新たな販売品の産出と販売高向上をはかる実証として「真空包装機」を導入し、その操作説明会を開催しました。当日は22名の方が参加され、業者からの説明を受けながら、実際に真空パック化を体験していただきました。

2月13日

農村RMO先進地域への視察研修

3か年で取り組んでいる本事業も残り1年となり、事業導入による成果や課題、持続可能な地域づくりを整理するにあたり、今年3年目を迎えられた佐田町への視察研修を実施しました。
佐田町では、次なる地域運営組織への変革と、今後の活動への資金確保について課題を持っておられました。
また、住民に負担を求めないなかで、自分事として取り組んでいただきたいとの思いを持たれていました。



2月～3月

深谷温泉の水車設備の修繕



令和3年7月の豪雨により被害を受けた深谷温泉の水車施設（水車本体。米つきおよび粉ひき）の修繕、また新たな水利の確保や電源工事などにより、水車施設を復元しました。
現在は、温泉利用者に水車の回るのどかな場を提供しています。

【以前の水車】



【今後の予定】

・農産物の生産、販売高アップへの検証

⇒引き続き、地区内の休耕田や畑を利用した野菜等の栽培を行い、鍋山産の農産物の販売高アップを図ります。

⇒現在栽培しているニンニクの加工販売、昨年に引き続きカワラケツメイ(はま茶)や、里坊や坂本地区で栽培されている山椒の植栽拡大、また、新たな作物(大豆、さつまいもなど)の栽培や加工販売化の実証に取り組みます。

・野菜等乾燥機、真空包装機の導入による実証

⇒これまでの生野菜や果実などを中心とした産直市への出荷だけでなく、乾燥加工した野菜、椎茸、山椒や果実、また真空パック化した野菜や加工品の出荷について実証を行います。これにより、規格外の野菜の活用も含め販売高のアップを目指します。

・新たな鳥獣害対策への実証

⇒イノシシなどの鳥獣被害の対策として、ICT(情報通信技術)の活用など効果的な侵入防護策について、関係機関と一体となって実証に取り組みます。

・共同作業場の整備

⇒現在の事業事務所(旧鍋山幼稚園)等を活用した、野菜の出荷や加工などができる共同作業場設置に向けた検討を進めます。

・ちびっこ農園(仮称)の開設

⇒鍋山小学校の児童たちに農業への関心を高めるとともに、地元の高齢者を中心とした住民との交流もはかりながら、地域の集い・憩いの場づくりに取り組みます。

・令和6年度に改修した深谷温泉の水車と連結されている石臼でそばの実や米を挽き、そば粉や米粉化して、そば打ちや団子作りなどの実証に取り組みます。